

三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査（速報結果）について

1 背景及び課題認識

全国的に子どもの貧困の問題が深刻な社会問題となっている。

三田市においても、家庭の経済状況にかかわらず、すべての子どもが健やかに成長するための方策を総合的・体系的に展開していく必要があると認識。

最初のステップとして、生活困難な状況に置かれている家庭の状況を把握するための実態調査を実施した。

2 調査概要

(1) 対象：小学校4年生から中学校3年生までの全児童・生徒及びその保護者

(2) 期間：平成29年7月18日～8月3日

(3) 手段：学校配布、郵送回収（親子ペアで回答）

(4) 内容：①保護者向け

世帯収入など家庭の経済状況、生活必需品など物的資源の充足状況、人とのつながりなど孤立化につながる要因、教育観や子どもへの関わり

②子ども向け

基本的な生活習慣、放課後の過ごし方など生活状況、学習の状況、自己肯定感や将来の夢

(5) 回収率：小学4年生～6年生 1,462人（配布2,994人：回収率48.83%）

中学生全学年 1,170人（配布2,806人：回収率41.69%）

保護者 2,307家庭（配布5,800人）

※内訳：親子ペア2,262家庭、保護者のみ45家庭

親子ペア回答率：44.37%

3 アンケート調査結果

(1) 所得分布及び分類

アンケート結果における「等価可処分所得」中央値 301万8,682円

※参考：2015年（平成27年）国民生活基礎調査結果における国の中央値 245万円

分類	等価可処分所得の範囲	人数	割合
分類Ⅰ(中央値の50%未満) ※相対的貧困	150.93万円未満	275人(ひとり親93人)	13.6%
分類Ⅱ(中央値の50～59%)	150.93万円以上～181.12万円未満	109人(ひとり親10人)	5.4%
分類Ⅲ(中央値の60～99%)	181.12万円以上～301.87万円未満	649人(ひとり親18人)	32.2%
分類Ⅳ(中央値以上)	301.87万円以上	984人(ひとり親9人)	48.8%

※所得回答者数2,017人(ひとり親130人)

(2) 他市との比較

	三田市	大阪市	堺市	吹田市
分類Ⅰ(中央値の50%未満)	13.6%	15.2%	15.8%	10.9%
分類Ⅱ(中央値の50～59%)	5.4%	6.6%	5.4%	5.8%
分類Ⅲ(中央値の60～99%)	32.2%	28.1%	29.0%	32.8%
分類Ⅳ(中央値以上)	48.8%	50.0%	49.8%	50.5%
所得中央値	約302万円	238万円	235万円	332万円
貧困ライン(貧困線)	約151万円	119万円	117万5千円	166万円

※参考：2015年（平成27年）国民生活基礎調査結果

国の相対的貧困率15.6% 貧困ライン（貧困線）122万円

(3) 回答の状況（抜粋）

【小学4年生～中学3年生】 ※上段：小学生、下段：中学生（各分類毎の割合）

設問項目	回答	分類Ⅰ	分類Ⅱ	分類Ⅲ	分類Ⅳ
放課後に過ごすことが一番多い人	おうちの大人の人	29.2% 27.9%	33.8% 35.4%	38.9% 30.3%	44.4% 32.7%
	きょうだい	13.7% 10%	11.7% 6.3%	11.6% 7.3%	7.1% 7.3%
学校での勉強理解度	よくわかる	29.8% 15%	39% 20.8%	40% 27.5%	55.8% 30.2%
学習塾に通っていない理由	通いたい が親にお金などの負担 をかけられない	7人(33人) 15人(41人)	2人(8人) 2人(9人)	3人(39人) 5人(51人)	1人(32人) 5人(46人)
自分の将来の夢や希望	持っている	63.1% 39.3%	66.2% 41.7%	67.1% 40.7%	62.4% 42.9%

【保護者】

（各分類毎の割合）

設問項目	回答	分類Ⅰ	分類Ⅱ	分類Ⅲ	分類Ⅳ
子に希望する進学先	高等学校	16.7%	16.5%	7.7%	3.5%
	大学・短期大学	58.9%	67.0%	73.7%	80.7%
保護者の希望通りに子は進学するか	思わない	8%	4.6%	5.5%	2.3%
希望通りに子は進学すると思わない理由	経済的な余裕がないから	18人(22人中)	1人(5人中)	16人(36人中)	1人(23人中)

4 支援者を対象とした調査

平成29年11月より、アンケート調査では見えない実態について、日常的に経済的困窮世帯を含む子どもの支援に携わる団体・関係機関を対象に調査を実施。

対象：市内小・中学校及び子ども食堂や学習支援に取り組む団体等15団体・機関

5 三田市における子どもの経済的困窮の問題の特性

- ・三田市において、こどもの経済的困窮の問題は表に出にくい（見えにくくなっている）
- ・相対的貧困層においてひとり親が経済的に困窮している実態がある
- ・家庭以外の社会とのつながりが狭い

6 今後の方向性（議論の視点）

- ・こども（とその保護者）の孤立感の早期把握と支援者の育成
- ・地域で支える子育て、地域コミュニティの醸成
- ・教育と行政の役割分担